

平成30年度

通期業績予想

〔上半期決算反映版〕

平成30年12月

箕面都市開発株式会社

上半期決算に基づく通期業績予想の概要

1 平成30年度予算と通期業績予想を比較すると

- 通期業績予想では、予算編成時の見込みに比べ、営業利益、経常利益、当期純利益とも予算を上回る見込みであり、経営は順調です。

2 調停条項と比較すると

- 期末資金残高について、**調停条項の想定推移を上回る見込み**です。
- 平成24年度末に債務超過が解消された純資産額についても、**調停条項の想定推移を引き続き上回る見込み**です。
- 本業の利益を示す営業利益など、いずれの利益ベース(営業利益・経常利益・当期純利益)においても、**調停条項を上回る見込み**です。

3 今後の展望

- 今期は売上高、営業利益、経常利益とも予算を上回る見込みとなっており、調停条項に対しても各利益ベースで上回り、引き続き、順調な経営予想となっています。
- 今後もキャッシュフロー安定化のための経営努力を行います。

平成30年度

通期業績予想

1. 平成30年度通期業績予想

(単位: 千円・%)

	平成30年度			平成30年度通期業績予想との比較			
	調停条項	予算額	通期業績予想	調停条項		予算額	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	106,880	127,000	128,204	21,324	20.0	1,204	0.9
営業利益	14,380	23,000	25,000	10,620	73.9	2,000	8.7
経常利益	12,639	19,955	22,006	9,367	74.1	2,051	10.3
当期純利益 (※)	6,198	11,189	12,332	6,134	99.0	1,143	10.2
期末資金残高	85,252	114,023	114,962	29,710	34.8	939	0.8
純資産額	34,312	68,081	69,224	34,912	101.7	1,143	1.7

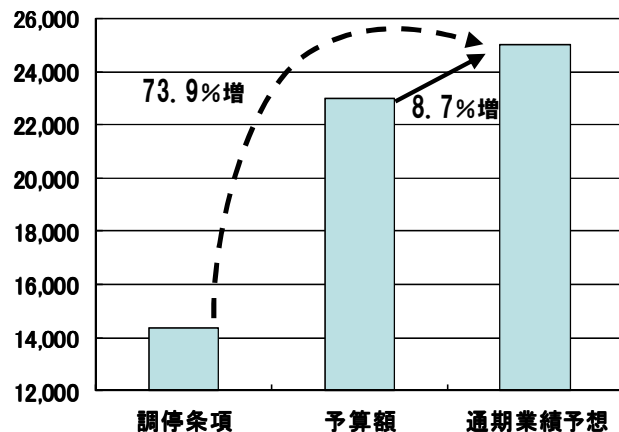
(※)法人税等調整額を除いています。

法人税等調整額とは・・・税務上の損金、益金で算定される課税所得と企業会計上の費用、収益で算定される当期純利益との差額を調整するものです。

通期業績予想では、すべての項目において、予算額を上回る予定です。

2. 平成30年度営業利益（本業利益）の比較

(千円)



調停条項、予算額ともに上回る予定となっています。

要因

駐車場事業収入や文化・交流センターの利用料金が増加見込みであることに加え、人件費をはじめとした経費の削減が営業利益増加の要因です。

3. 貸借対照表

(単位: 千円)

	平成29年度 (平成29年9月30日現在)		平成30年度 (平成30年9月30日現在)		増減額
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	
資産合計	537,650	100.0	601,136	100.0	63,486
流動資産	128,434	23.9	125,118	20.8	▲3,316
固定資産	409,216	76.1	476,018	79.2	66,802
有形固定資産	374,650	91.5	437,541	91.9	62,891
無形固定資産	296	0.1	296	0.1	0
投資その他の資産	34,270	8.4	38,181	8.0	3,911
負債合計	460,218	85.6	504,814	84.0	44,596
流動負債	24,067	5.2	24,755	4.9	688
固定負債	436,151	94.8	480,059	95.1	43,908
純資産	77,432	14.4	96,322	16.0	18,890

純資産(繰延税金資産除く)	53,717	—	66,996	—	13,279
---------------	--------	---	--------	---	--------

※繰延税金資産とは・・・将来の会計期間に帰属すべき税金費用(損金)を当期に前払いしたと考え、これを繰延処理することにより生じる資産のこと

4. 決算実績と予算・通期業績予想の対比

(単位:千円・%)

	平成29年度 (予算)		平成29年度 (決算)		平成30年度 (予算)		平成30年度 (通期業績予想)		増減率	
	金額	売上高 利益率	金額	売上高 利益率	金額	売上高 利益率	金額	売上高 利益率	H29決算・ H30業績予 想対比	H30予算・ H30業績予 想対比
売上高	128,500	—	130,031	—	127,000	—	128,204	—	▲1.4	0.9
受託料収入	79,723	—	79,624	—	76,749	—	77,063	—	▲3.2	0.4
所有床賃貸収入	8,551	—	8,551	—	8,551	—	8,551	—	0	0
土地賃貸収入	22,776	—	23,530	—	24,410	—	24,510	—	4.2	0.4
受取手数料収入	2,500	—	2,782	—	2,290	—	2,615	—	▲6.0	14.2
文化・交流センター売上	14,950	—	15,544	—	15,000	—	15,465	—	▲0.5	3.1
営業利益	18,000	14.0	22,129	17.0	23,000	18.1	25,000	19.5	13.0	8.7
経常利益	16,064	12.5	19,255	14.8	19,955	15.7	22,006	17.2	14.3	10.3
当期純利益	—	—	17,150	13.2	—	—	—	—	—	—
当期純利益 (法人税等調整額除く)	8,880	6.9	13,238	10.2	11,189	8.8	12,332	9.6	▲6.8	10.2

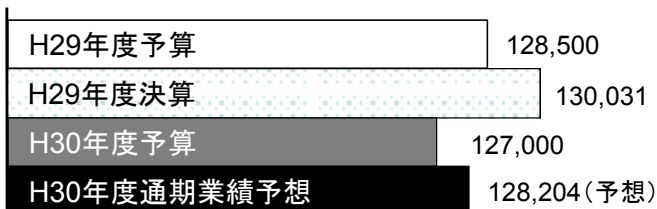
5. 売上高・利益ベースの推移

- ・平成29年度決算は、各利益ベースとも予算を上回る収益が確保できました。
- ・平成30年度も、前期に引き続き、予算時に比べ売上高、営業利益、経常利益、すべての利益ベースとも上回る予定です。

H29決算・H30予算と通期業績予想の比較・主な要因

■売上高

(単位:千円)



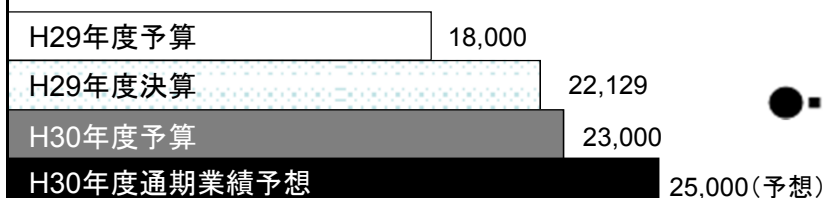
決算比1.4%減

- ・駅前駐車場受託事業の見直しによる

予算比0.9%増

- ・駐車場事業収入や文化・交流センターの好況による

■営業利益



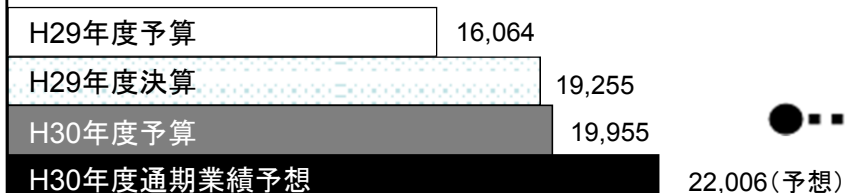
決算比13.0%増

- ・所有床売却による租税公課及び共益費等の減少による

予算比8.7%増

- ・人件費等の販売管理費の削減による

■経常利益



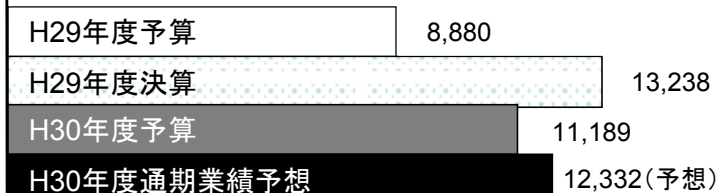
決算比14.3%増

- ・営業利益の増益による

予算比10.3%増

- ・営業利益の増益による

■当期純利益



決算比6.8%減

- ・平成29年度は不動産売却に伴う特別利益を計上したことによる

予算比10.2%増

- ・経常利益の増益による

参考１：経営内容を判断するポイント

■貸借対照表や損益計算書で経営判断することも必要ですが、新たな投資や臨時的な支出に大きく左右されます。

★調停条項の着実な履行を判断するポイント

- ①期末にどれだけの資金残高があるのか
- ②純資産額が増加しているのか

.....➡ 資金計画で判断することが適切

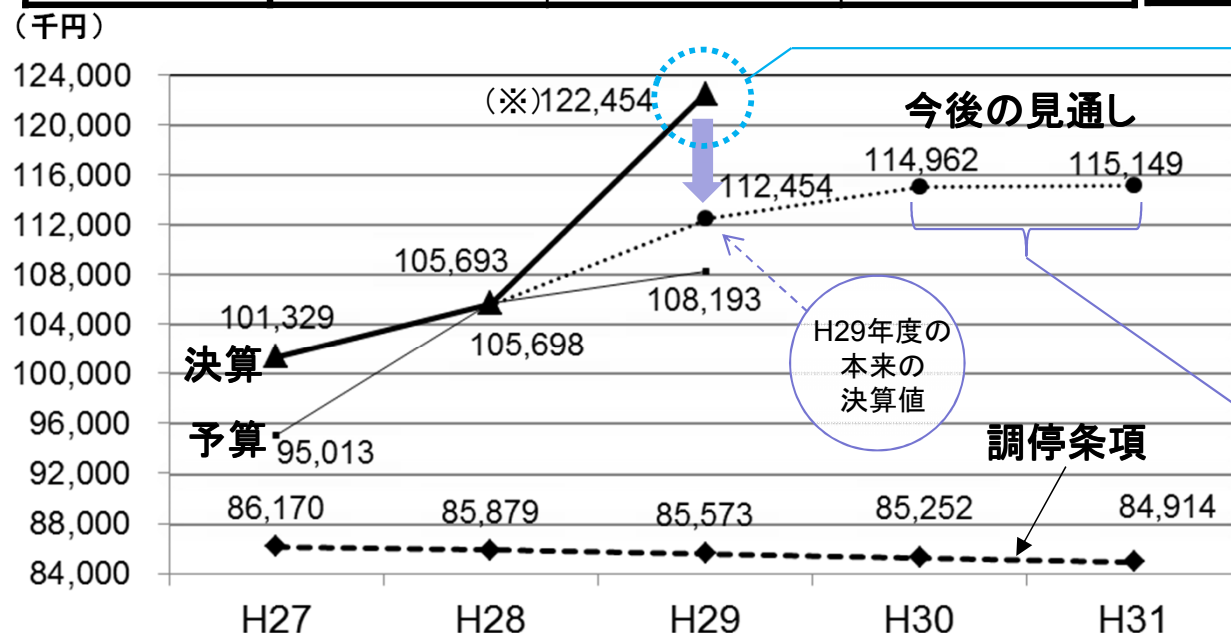
参考２：資金計画の見込み

(１) 期末資金残高の推移

(単位:千円)

	各年度の予算・決算実績		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度
調停条項	86,170	85,879	85,573
予算	95,013	105,698	108,193
決算	101,329	105,693	122,454

	平成30年度	平成31年度
調停条項	85,252	84,914
今後の見通し 平成30年度通期業績予想による	114,962	115,149



※平成29年度中に弁済予定の市借入金支払日が平成30年度当初にずれ込んだため、平成29年度末時点の期末資金残高が一時的に多くなっています。この支払遅れがなかったら、平成29年度の本来の決算値は「112,454千円」でした。

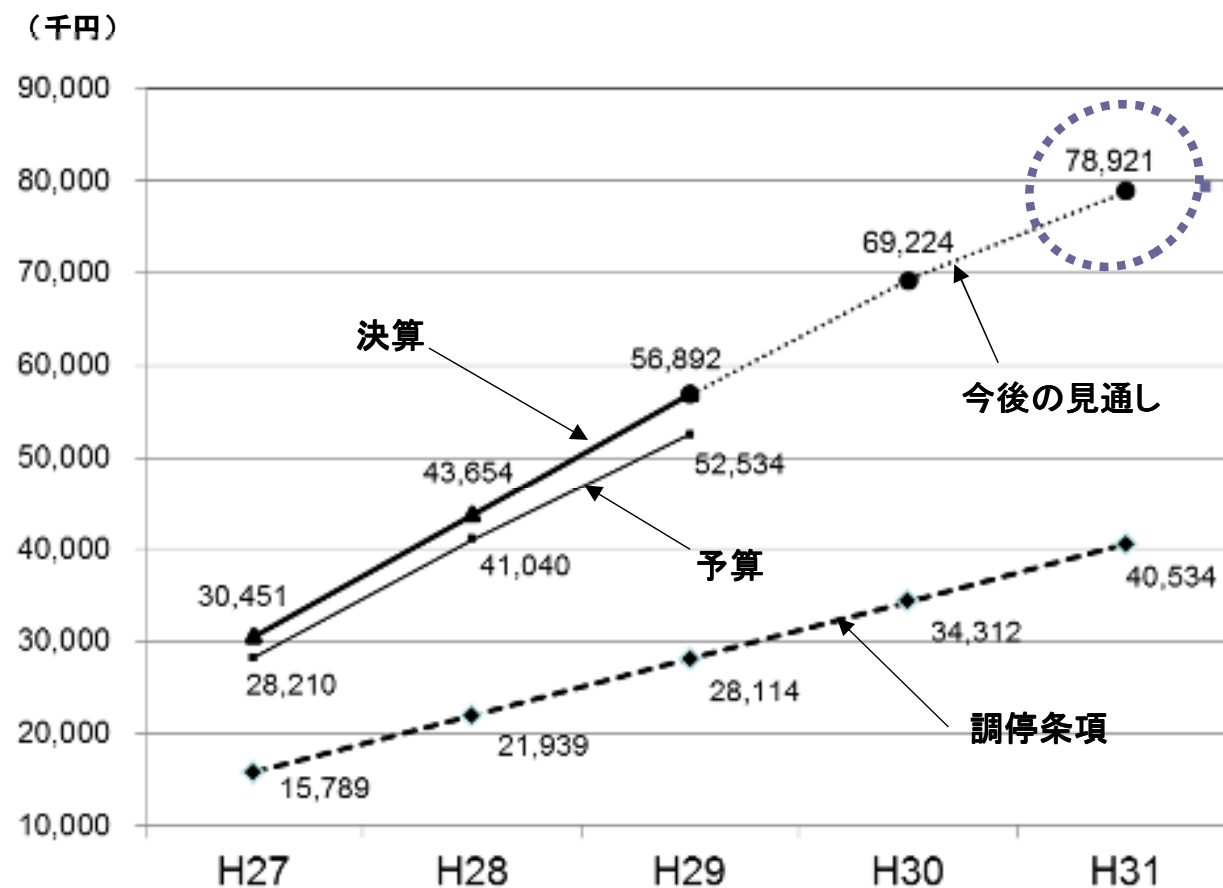
9期連続で調停条項の推定推移を上回る予定です。

(2) 純資産額の推移

(単位:千円)

	各年度の予算・決算実績				平成30年度	平成31年度
	平成27年度	平成28年度	平成29年度			
調停条項	15,789	21,939	28,114	調停条項	34,312	40,534
予算	28,210	41,010	52,534	今後の見通し 平成30年度通期業績予想による	69,224	78,921
決算	30,451	43,654	56,892			

(各数値は繰延税金資産を除いています)



調停条項の想定推移を大幅に上回る予定です。

参考3：事業別売上高の推移

(千円)

140,000

120,000

100,000

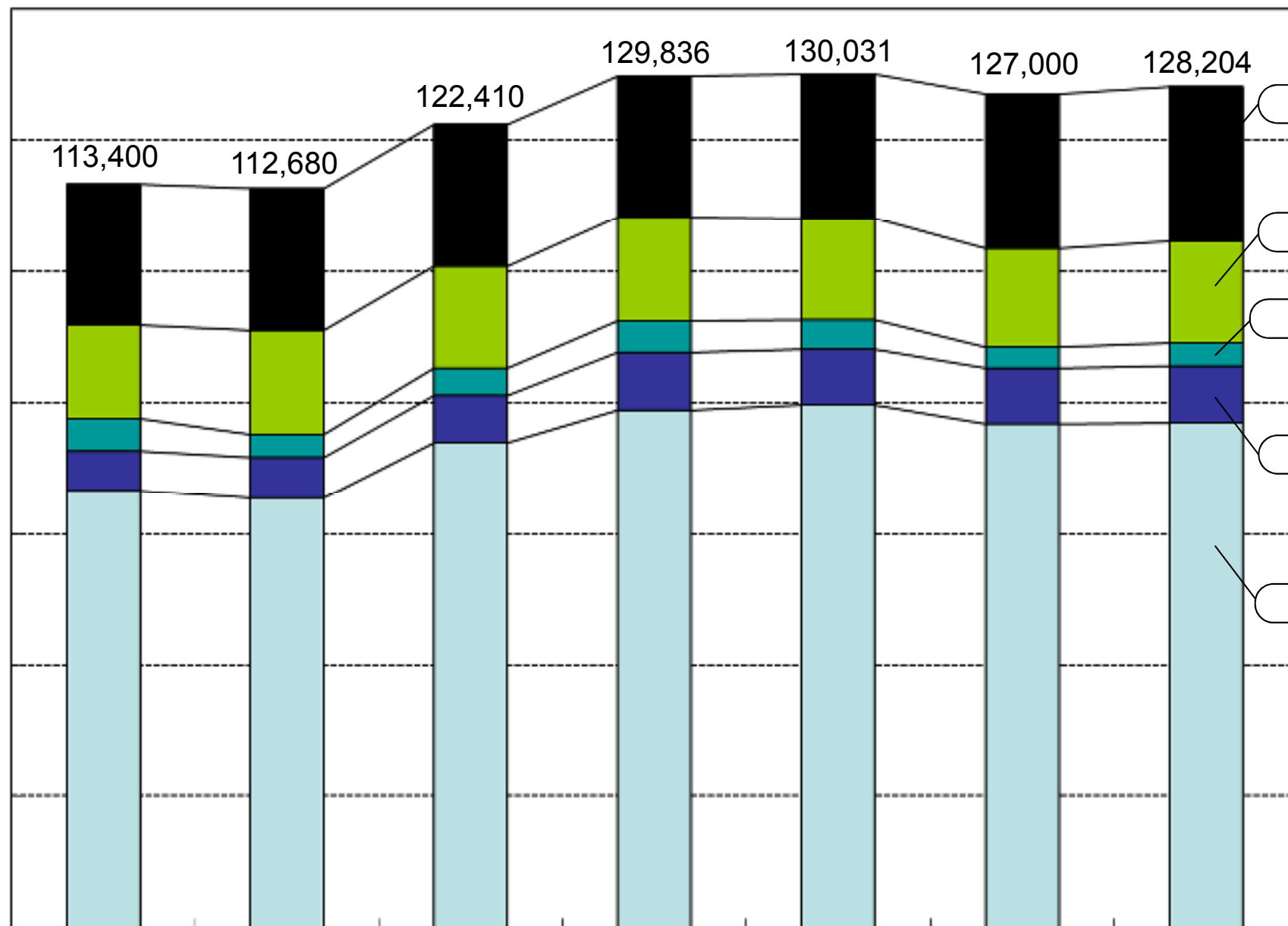
80,000

60,000

40,000

20,000

0



H25

H26

H27

H28

H29

H30

(予算)

H30

(通期業績予想)

文化・交流C売上

受取手数料収入

土地賃貸収入

所有床賃貸収入

受託料収入